

たいわ 町議会だより



ラッパ隊
(町消防団夏季演習)

6月定例会の主な内容	2
政務活動費の使い方	4
税の町外流出を防げほか一般質問者13人	6
議会活動報告	19

6月定例会

(会期6月6日～6月9日)

内 容

条例の改正や補正予算などを慎重に審議し、一般質問は13人の議員が、町の対応や考えを問いました。

条 例

●特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正

町長・副町長の給与3カ月分に限り、50%を減じる。

可決(賛成15 反対2)



職員処分は適正か

問 民間と比べると処分が軽い。今回の飲酒運転での処分が1年間の停職、一昨年は、6カ月の停職であった。期間の違いは、

答 民間との比較は、顧問弁護士に相談し、重い部分と軽い部分があるとのことであった。今回、人身事故であったので最長1年間の停職処分とした。

問 6カ月と1年間の違いは結果であって、飲酒運転の行為で処罰をしなければならぬ。重大な犯罪である。

答

懲戒処分審査会で他の自治体や過去の事例を基に処分を決めている。

●家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

建築基準法の改正に伴う改正。

可決(賛成17 反対0)

平成28年度補正予算

●一般会計

歳入歳出予算に1億6437万円を追加し、総額

●下水道事業特別会計

歳入歳出予算に900万円を追加し、総額を8億5720万円とする。

可決(賛成17 反対0)

●宮床財産区特別会計

歳入歳出予算に918万6000円を追加し、総額を3189万3000円とする。

可決(賛成17 反対0)

を112億3236万4000円とする。

可決(賛成17 反対0)

審 議 内 容

条 例	結果	賛：反
特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正	可決	15：2
家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	可決	17：0
平成28年度補正予算	結果	賛：反
一般会計	可決	17：0
特別会計	宮床財産区	可決 17：0
	下水道事業	可決 17：0
そ の 他	結果	賛：反
人権擁護委員	適任	17：0



◆平成28年度補正予算質疑◆

(仮称)南部コミセン整備

社会資本整備総合交付金の減額の中身は。

交付金は、県が国から交付され、各市町村へ配分している。町は、

(仮称)南部コミセンの建設費分の補助額40%を優先し、残額を広場や耐震貯水槽整備などへ充当した。交付金が満額配分されなかったため、減額となった。

打ち上げ花火やります

まほろば夏まつりでの花火の実施計画は。

まつり会場のまほろばホールから見えるように花火の大きさを3号玉から4号・5号玉へ変更する。打ち上げ数が少なくなるが見ごたえある花火にしたい。また、打ち上げ場所を住宅がない国道457東側へ変更し、安全距離も今までより50m広くとり、さらに民間の保険に加入し、安全に対応したい。



打ち上げ花火 復活

新たな特産品に

伊達いわなの生産事業の詳細は。今後の目標は。

伊達いわなは、卵を産まない雌で通常のいわなより大きくなるように開発された。

今年、町が事業主体となり、設備や備品を整え、来年は伊達いわな振興協議会へ貸し出す。県が全国にPRし、町内の飲食店には安価な仕入れができるように進めていく。来年以降は、県が中心になって振興を図っていく。



脂ののっておいしい「伊達いわな」

人事

●人権擁護委員

品川 豊子氏

(70歳 落合蒜袋字新田) 適任(賛成17 反対0)

議会に届いた陳情書・要望書

受付	件名	提出者
28. 5.25	湯名沢準用河川の排水対策事業の早期実現に関する要望書	大和町吉田麓下区長 若生 英光 大和町吉田清水区長 佐藤 修
28. 5.30	最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める 政府に対する意見書採択を求める陳情書の提出について	宮城県春闘共闘会議 代表幹事 安藤 満
28. 5.31	日本政府に核兵器廃絶のための行動を求める 意見書提出のお願い	2016 年原水爆禁止国民平和行進 宮城県実行委員会 代表委員 青木 正芳 ほか 14 名
28. 6. 1	中小業者の自家労賃を必要経費として認めることを 求める意見書の提出を求める陳情書	仙台民主商工会婦人部 部長 大竹 康子

報告

平成27年度
政務活動費の使い方

政務活動費は、町政に関する必要な調査研究のために、議員1人当り月額5000円が町から交付されている。平成27年度に交付された政務活動費収支報告書の概要を報告する。

【会派・党派別の支出状況】

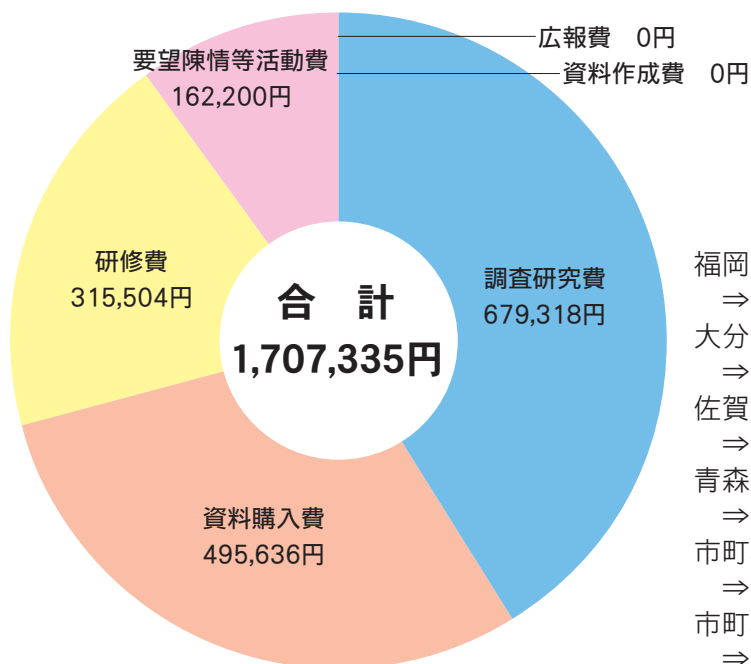
単位：円

党派・会派名	代表議員	支出総額	支出内訳	
			交付額	自己負担額
公明党（1人）	伊藤 勝	90,130	60,000	30,130
日本共産党（1人）	藤巻 博史	64,681	60,000	4,681
ようざん 鷹山会（4人）	平渡 高志	240,827	240,000	827
新清会（6人）	大崎 勝治	908,856	360,000	548,856
無所属（6人）	浅野 俊彦	32,268	25,000	7,268
	松浦 隆夫	63,810	60,000	3,810
	松川 利充	69,525	60,000	9,525
	高平 聡雄	121,574	60,000	61,574
	馬場 久雄	54,744	60,000	△ 5,256
	中川 久男	60,920	60,000	920
合計（18人）		1,707,335	1,045,000	662,335

町から交付を受けた政務活動費の支出総額は…

1,039,744円です。

(交付額1,045,000円から返還額5,256円を差し引いた金額)



【主な視察・研修先と内容】

福岡県宮若市（H27/7/15）
⇒財産区、定住促進
大分県日田市（H27/7/16）
⇒林業振興
佐賀県武雄市（H27/7/17）
⇒空き家バンク、有害鳥獣対策
青森県大鰐町（H27/11/4～5）
⇒定住促進・子育て住宅支援事業
市町村議会議員特別セミナー（H27/10/26～27）
⇒災害発生時の議会・議員の役割など
市町村議会議員特別講座（H27/10/28～30）
⇒政策立案

平成28年度の会派・党派

党派・会派名	代表者	所 属 者
ようざん 鷹山会	堀籠 英雄	千坂 裕春、門間 浩宇、平渡 高志、中川 久男
新清会	大須賀 啓	槻田 雅之、渡辺 良雄、今野 善行、堀籠 日出子
公明党	犬飼 克子	政治上の主義・主張を同じくする人々が結成したグループを会派といいます。
日本共産党	藤巻 博史	上記に氏名のない議員は無所属となる。

一般質問

議員13人が町長と教育長に質問

一般質問は、議員の日常活動と調査・研究、町民の声や自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。

1人60分の制限時間。議会だよりでは、質問と答弁を要約しています。本会議場での傍聴をお待ちしています。

質問者	質問事項	ページ
千坂 裕春	1. 税の町外流出を防げ 2. 北部工業団地周辺の町道整備を 3. 有名私立大学の付属校の誘致を	6
高平 聡雄	1. 中心市街地の再開発について 2. 感震ブレーカー導入について	7
浅野 俊彦	1. 木造町営住宅の建て替え、再整備が必要では 2. 豪雨への対策とその進捗状況は 3. デマンドタクシーの更なる進化が必要では	8
犬飼 克子	1. 緊急情報を聞き逃しなく 2. 防災会議に女性委員の複数登用を 3. 投票率アップについて	9
今野 信一	1. 商店街を含むまちづくりについて 2. 通学路の安全確保について	10
門間 浩宇	1. 鶴巣田中橋について	11
馬場 良勝	1. 農業振興策について 2. 鶴巣教育ふれあいセンター歩道の整備が必要では	12
渡辺 良雄	1. 大和町地域防災計画の有効性を問う 2. 「道の駅」的な広場づくりを	13
千坂 博行	1. 本町における食育の取り組みについて 2. 学校給食に問う。教育の成果と運営の課題について 3. 婚活への取り組みについて	14
今野 善行	1. 農業振興に係る総合戦略実現に向けた具体策とその体制整備について	15
槻田 雅之	1. 滞納者減少と町民の利便性向上の観点からコンビニ納付の実施を 2. 仮称)南部コミセンと南部コミセンの周辺整備の進捗を問う	16
堀籠日出子	1. 認知症高齢者への支援充実について 2. 地区公民館の機能強化について	17
藤巻 博史	1. 吉岡まほろば2丁目周辺の安全対策 2. デマンドタクシーの充実を	18

※会議録は議会事務局やホームページで閲覧できます。

質問者



議員 春 裕 坂 千

税の町外流出を防げ

町長 職員の町内居住を促す

議員 税の町外流出を防ぐ必要がある。町外職員の比率と給与年間総額・諸手当年間総額は。

町長 町外職員の比率は、全体の39・5%である。給与は2億1895万円、諸手当は1億1793万円である。

議員 町外職員の比率を下げ、諸手当を廃止すべきでは。

町長 比率は、年々増えているので、町内居住を促していく。諸手当は、国に準じて条例を定め支給しているので、大変難しい。

議員 随意契約を町内企業に限定にすべきでは。

町長 予算編成説明会で徹底するように指示している。



路面排水の改善を(町道松和田本線)

北部工業団地周辺の町道整備を

町長 現状を注視し、必要な措置を

議員 北部工業団地周辺の町道整備が遅れ松和田上では、少量の降雨でも、広範囲に渡り水が溜まり運転に支障を生じかねない。

町長 年月の経過で、路面が傷み水溜りができる状況である。現状を注視し、必要な措置をする。

議員 落合松坂では、朝夕の通勤時、交通量が多く、幅員が狭くカーブも多い。早急に整備をすべきでは。

町長 以前に土側溝をU字溝に入れ替えた。県道大和幡谷線の交差点改良を県に要望し、迂回車両の減少を図る。

有名私立大学の付属校の誘致を

町長 用地確保が課題

議員 有名私立大学の付属小・中・高を誘致し、さらに、活性化を図るべきでは。

町長 総合計画で「宮城大学を活かした周辺整備の推進」を掲げているが、校舎敷地やグラウンドなどの用地確保が課題である。

一〇メモ

随意契約

国、地方公共団体などが、競争入札方法によらず、任意に決定した相手と結ぶ契約のこと。

再起動！市街地の再開発

町長 住民と一体で可能性探る

議員 吉岡地区は中町・下町・上町を核として中心市街地が形成されている。しかし周辺の宅地開発や郊外への大型店舗の進出、少子高齢化の急速な進展により中心市街地の活力は著しく低下している。「街なか居住」、「市街地の整備改善」、「商業地等の活性化」、「都市福祉施設の整備」を基本とした中心市街地活性化を目指せ。

用を必要とするので、先行的な取り組みをしたい。

議員 昭和48年に策定した都市計画が放置されている。中町線の拡幅・県道昇格で北部工業団地から4号線をまたぎ中町、吉岡南、総合体育館、国道457号線への新ルート貫通と下町線や館下線の拡幅延伸も図り中心市街地再生を図れ。

町長 商店街の半数の移転や立体交差や平面交差の選択が難しく40年余り整備が進んでいない状況だ。住民と一体となった整備手法を研究し可能性を探る。

感震ブレーカーで火災抑止

町長 調査研究していく

※経済産業省ホームページより引用

【感震ブレーカーの種類】			
分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
			
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを検知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを検知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

（注）住宅分電盤の種類に連した製品をお選びください。



感震ブレーカーを設置して
電気火災から「家」「地域」を守ろう。

電気復旧時は気をつけて



議員 雄 聡 平 高

議員 感震ブレーカーは設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断するものであり、各家庭に設置することで出火を防止し、他の住宅などへの延焼を防ぐことで、被害を大きく軽減することができ、補助制度を確立し減災に役立ててはどうか。

町長 国の基本計画では、現在、感震ブレーカーの緊急・重点地区に東北北海道は該当していない。補助は主に「地震などに著しく危険な密集市街地」を有する自治体だが、感震ブレーカーの作動精度及び設置実績を踏まえ調査研究する。

一ロメモ

感震ブレーカー
あらかじめ設定した震度以上の揺れを検知した場合、自動的に遮断する。電気復旧時の通電火災対策に有効な遮断器具。



議員 浅野 俊彦

木造町営住宅の建て替え、再整備は

町長 建て替え、再整備の計画はない

議員 昭和40年代以前に整備した町営住宅は、木造であり劣化が著しい。健康で文化的な生活を営むに足りる住宅であるのか。

町長 町内8ヶ所37戸が入居している。築50年を超え、劣化による不具合が発生する都度、補修・修繕し、居住環境の維持に努めている。中層住宅への転居なども重ねて要請している。

議員 住宅に困窮する低所得者に町営住宅を整備する必要がある。近隣町村の整備戸数と比較し、町営住宅は足りているのか。

町長 中層住宅140戸、公営住宅の雇用促進住宅60戸、県営住宅18戸、合せて218戸あり、千人当たり7・6戸で、富谷町1・9戸、

大郷町12・9戸、大衡村26・3戸で少ないと認識している。

議員 郡内他町村は、県住宅等整備の新5年計画を活用し、事業展開しようとしているが、本町の事業は何もない。解体した木造町営住宅跡地を再整備する計画はないのか。

町長 県が作成した住生活基本計画にある住宅等整備計画策定によって国庫補助にあたっては本町も参加しているが、再整備する計画はない。



昭和30年建築

豪雨対策は進んでいるのか

町長 治水は重要、国・県に要望する

議員 次の豪雨に備え、早急な対策が急務である。決定した治水対策と進捗は。

と一部改良が9月以降着手予定である。

町長 国交省は本年6月から吉田川中流部の河道掘削を実施する。県管理区間の高田中央橋下流の災害復旧

議員 舞野、高田地区の家屋浸水対策は。

町長 国、県で整備計画を変更中で、年内に方針が示

運行エリア拡大を 町長 現状のままとする

議員 デマンドタクシー運行エリアを道路割とし、吉岡西原、石神沢地域を加えるべきでは。

町長 見て分かりやすいといった利点はあるが、行政区内で分かれてしまい、混乱を招く恐れがあるため、現状のままとしたい。

議員 広告収入を募れないか。また、午前便も1時間前予約にするなどの改善が必要では。

町長 料金収入以外の収入を見出すのは困難な状況。1便目は困難であるが、2便目以降の申し込み時間の短縮を図り、利便性の向上を図った。

される。

議員 町管理の準用河川も河道掘削が必要では。

町長 支障木やごみの撤去が主であるが、土砂の堆積などを見て対処していく。

緊急情報を聞き逃しなく

町長 災害を教訓にする

議員 災害時に防災行政無線での広報活動は整っているが高気密の住宅などで聞き逃しの声が多い。

昨年9月の「関東・東北豪雨災害」の時も聞き逃しが多く避難が遅れたが、その対策は。

町長 昨年9月の「関東・東北豪雨災害」では、吉田川の落合水位観測所における避難判断水位(6.8m)に達する時間帯が深夜になる見込みであったことから、避難準備や避難勧告の段階を踏まえず午後11時に避難指示を発令し、その伝

達手段として防災行政無線を使った。防災行政無線の聞き逃しの対策として、放送内容が確認できるダイヤルサービス、メールサービスがあり利用方法は、広報誌やホームページで案内している。昨年の災害を教訓として、状況に応じた緊急情報の広報活動に努める。

議員 聞き逃しによる案内サービスは有料だが無料にしてはどうか。

町長 現在、フリーダイヤルによる音声案内を提供できるように進めている。

期日前投票を簡単に

町長 投票率向上へ調査研究する



大切な一票（黒川高校模擬選挙）

議員 期日前投票では、当日どこに行くなど、聞かれることに不快な思いをしている人が多い。入場券にあらかじめ理由を明示したものにしておけば、受付がスムーズになり、投票率アップにつながるのではない

か。
町長 7月の参議院議員選挙は、衆参同日の可能性が直前まであったことから、期日前投票の混乱を避けるため、受付方法の変更はしないこととして準備を進めている。投票率向上のため

防災会議に女性委員の複数登用を

町長 選任時期に考える

議員 防災会議条例によると、委員は26人以内となっている。委員構成の現状を見ると女性委員は一人である。女性委員を増やし、女性ならではの防災態勢を整えるべきと思うが。

町長 全国的に見ても、防災会議への女性登用は少ない。女性ならではの考え方や視点がある。女性委員の複数登用は、任期2年であることから次回の選任時期に考える。

に成年者はもちろんのこと、18才以上の啓発活動とあわせ、有権者の皆さんにとつてどのような方法が投票しやすいか、投票率向上につながるか引き続き調査研究していく。



議員 子 克 飼 犬

商店街を活かしたまちに

町長 商工会や宮城大学と連携をとりながら



議員 今野 信一

議員 今まで商店街の調査・診断を行ってきたが、大きな成果が見られない。商店街の活性化にける想いは。

町長 商店街は地域経済において重要な役割と、コミュニティ機能も担ってきた。しかし、近年商業者の高齢化と後継者不足の問題も顕著化している。

映画「殿、利息でござる」上映を好機ととらえ、旧街道沿いにのぼり旗やペナントの設置、空き店舗にシャッターアートを施し商店街の雰囲気を変えた。また、各個店も創意工夫で活性化に取り組んでいる。町としても商工会と連携し、商店街の活性化にさらに尽力していきたい。

議員 町長の公約「若手商人や宮城大、企業との連携で活力ある商店街を目指す」とは。

町長 昨年、宮城大学と連携協力に関する協定を締結した。内容は、人材育成・文化振興・産業振興などまちづくりの各分野での協力が明記されている。

町内企業との連携も踏まえて、宮城大学が持つ人的・知的資源、研究成果などを利用し、活力ある商店街の実現に向けて一緒に進めていきたい。

通学路の安全確保は

町長 ゾーン30の整備を行う

議員 吉岡小学校と大和中学校前の道路（町道権現堂線）が制限速度30キロになった。今後の学校周辺の整備は。

町長 昨年、当該町道を除く生活道路は、「ゾーン30」の区域に設定された。これにより、大和警察署から歩行者の安全確保と運転者への注意喚起を図るため、路面表示などの安全対策を依

頼された。

町道権現堂線に接する生活道路に歩行者レーンとして路面に緑色の明示を行う。

議員 通学路の安全点検はどのように行っているのか。

町長 各小・中学校で毎年、教員・PTAが安全点検を実施している。危険箇所が

あったときは、地区PTAから通学路危険箇所改善要望書を学校が受け、その都度教育委員会に報告され、迅速に対応をしている。

一口メモ

ゾーン30
生活道路が密集する区域を指定し、車の最高速度を時速30キロに設定する交通規制と路面標示を組み合わせた交通安全対策のこと。



通学路を安全に

鶴巣 田中橋の再整備を

町長 県と相談する

議員 鶴巣幕柳の田中橋が

5月31日に補修工事を完了した。しかし、14トン未満という制限が引き続き残り、制限を超える大型車両は迂回を余儀なくされている。田中橋の更なる整備計画はあるのか。

町長 今回、実施した補修工事は早期交通開放を図るため、現状の強度に復元したものである。

耐荷重を増強することは橋梁すべての構造を変えることになる。橋台の改修や河川改修計画との整合、更には県道との交差点の形状

改良など多くの課題が山積であることから、本町独自の整備は困難なことから受け止めている。

議員 交差する県道塩釜吉岡線も含め、周辺の道路整備の考えは。

町長 田中橋に近接する県道塩釜吉岡線の整備は、平成8年2月頃に宮城県仙台土木事務所から、県道塩釜吉岡線、町道幕柳大平線（田中橋）を含めた交差点改良計画の説明会が地元住民を対象に開催したが、住民の意見一致がみられず、事業

化は延期されたままとなっている。

現在の田中橋を含む交差点は変則的な形状で、以前から危険な交差点であったため、通過する車両と歩行者の安全を目的に宮城県公安委員会が昨年の3月2日に信号機を設置した。

更なる安全を図るための当該交差点の改良事業は、地元住民の意見や他町と関連する課題を整理しながら、県と相談していく。



積載すると渡れない



もん ま ひろ いえ 議員
門 間 浩 宇



議員 馬場 勝 良

独自の農産物を

町長 関係機関と連携し、検討

議員 農商工との連携による地元農産物の加工・商品化は進んでいるか。

町長 生産体制の確立、生産量の確保、流通体制などの連携が必要であり、難しい問題がある。地元農産物と加工業者とのマッチングなどを行っていく。

議員 本町の農産物及び加工品のPRが弱いように感じるが。

町長 ホームページやガイドブックの物産コーナー「まほろばの恵み」に掲載しており、各種イベントで地場産品の販売などPR活動を行っている。一部の農産物ではふるさと納税の返礼品としての活用も図っていく。

議員 本町独自の農産物及び商品の検討は。

町長 本町独自の農産物は、転作作物を中心に導入してきた経緯があり、作物生産体制の産地化などJAあさひなが主体となって進めてきた。消費者の動向など流行にあわせて、付加価値の高い加工品の製品化が見込める作物をJAあさひなや生産者などと連携し検討していく。

歩道の整備が必要では

町長 通行に支障の無いよう対応

議員 鶴巣教育ふれあいセンターへの歩道のいたみが激しい。鶴巣児童館への通学路ともなっており、早急

な整備が必要では。

町長 街路樹の成長に伴い歩道部分の根が伸び、表面の舗装が隆起している。

避難用の誘導路としての扱いもあり、街路樹への影響も考慮し、通行に支障の無いよう対処していきたい。



本町のブランド野菜

賑わいのあるまちづくりを

町長 計画・体制整備が必要

議員 富谷町成田の「元氣くん市場」はたいへんな賑わいをみせており、本町の住民も多く利用している。仙台市に隣接している本町の利点を活かし、JAなどと協力して、農産物などの直売所を設け、賑わいのあるまちづくりを行ってはどうか。

町長 平成11年、行楽地の南川ダム湖畔に「花野果ひろば七ツ森」をオープンさせた。昨年末の売り上げは、組合員38戸で5200万円になっている。
元氣くん市場のような産

直施設は、農業者などの所得向上が見込めるが、生産計画や出荷・収集体制整備などが必要であり、事業に取り組む場合でも、JAあさひなどの協力が必要と考える。



議員 渡 辺 良 雄

地域防災計画は最新か

町長 県の計画に整合させた

議員 本町は、昨年9月の豪雨で大きな被害を受けた。防災計画は、最新の状態になっているか。

町長 宮城県計画と整合を図り、平成27年2月に策定した。最新の計画になっている。



インターネットでいつでも

～ Web 検索 ～

①雨量・河川水位・ライブカメラ
「川の防災情報」
提供先：国土交通省



②河川水位・ライブカメラ
「川ら版」
提供先：国土交通省
北上川下流河川事務所



③雨量・河川水位・ダム情報
「宮城県土木部総合情報システム」
提供先：宮城県土木部



※「 」の項目を検索

議員 計画策定から1年以上経過しているが、関係機関、相互応援協定団体などとの相互連携や訓練を行っているか。

町長 協定団体などとの具体的な訓練は行っていない。今後充実させていきたい。

議員 本町の水系に、更なる防災カメラや水位計の設置が必要ではないか。

町長 防災監視カメラは3カ所に設置され、水位計は、2カ所に設置されている。今回の豪雨を受け、県が洞堀川へ水位計を更に1カ所設置する計画である。

食育の成果と課題は

町長 健康的生活を目指し推進する



ち 千 さ 坂 ひ ろ 博 ゆ き 行 議員

議員 健康への関心は高まっている。同時に「食」に対する関心も高まっている。家族構成や世代によって、取り組みが違う。成果と課題は。

町長 食育の取り組みは、家族構成や世代間の部分的な課題と共通の課題がある。「大和町食育推進計画」を基に、食に関する各種分野の人々が一体となり食育推進を展開している。メタボリックシンドローム・予備軍該当者は、改善傾向にある。また、小中学生においては欠食の改善はしているが、バラつきがあり継続的な取り組みをしていく。



残さず食べます！

学校給食を教育と捉えているか

教育長 道徳であり改善に努める

議員 学校給食は、教育の目的を実現する目標がある。また、実施には行政が支援する費用と保護者が負担する費用がある。状況は。

教育長 「食」については、計画に基づき栄養バランスを考え「食材」「生産者」「調理者」への感謝の気持ちを

育む教育をしている。給食費は、消費税3%の増税分を町で負担している。

議員 未納の給食費回収には、学校・給食センターの職員が当たっているが、専門職に専念できるような改善は。

婚活の支援は

町長 サポートしていく

議員 人口減少問題は早急に、しかも本腰を入れて取り組むべきである。子どもを産み育てる支援は充実してきているが、婚活への取り組みは。

町長 官民あげて婚活に取り組まなければならないほど危機的な状況と認識している。農業委員会から総務課へ所管を変更し、婚活相談事業の継続と、他団体への参加助成など研究を進める。

教育長 給食費未納は、例年発生しているが、昨年度94万円であった。児童手当からの引落し推進、督促状の発送をしている。過年度分は、給食センターと町で家庭訪問を行っている。

農業の振興・再生で地方創生を

町長 大規模化と複合経営を推進

議員 まち・ひとしごと創

生総合戦略の策定と第四次
総合計画の見直しがなされ
た。その中で、農業経営基
盤の充実・安定化を図り元
気のある農林業の実現を図
るとしている。農業の振興・
再生は地域の活性化、ひい
ては地方創生にもつながる
と思うが目指す本町農業の
姿は。

町長

農業振興の基本方向
としては、優良農地を確保
しつつ水田農業に野菜・畜
産などを取り入れた複合経
営を推進し、大規模化と法
人化により安定した経営を
目指すことが必要と考えて

議員 農・商・工連携で六
次産業化の促進を図るとし
ているが、原材料の供給や
加工技術、販売先の開拓な
どの課題をどのように解決
していくのか。

議員 水田を中心とした土
地利用型農業の今後の進め
かたは。

町長 米プラス、転作を本
作に定着させていくために
は、農業者を含め農業団体
や大学、研究機関などとの
連携を深め総合的な考え方
で進める必要がある。

議員 農業振興と地方創生
につながる取り組みにあ
たっては、企画、調査・研
究、関係者との調整などに
対応し得る人材の育成が必
要であるが、どのように育
成し、確保するのか。

町長 農業生産を担う経営
体としては、認定農業者、
集落営農、法人の育成が必
要と考えている。

職員の育成については、
町の行政全般について経
験、勉強してもらうことも
重要であり教育はしっかり
やっていく。また、その業
務に特化した教育研修の方
法もあり、課題によつては
専門家の育成もしていく。



議員 行 善 野 今



米からネギへ



議員 之 雅 田 槻

(仮称)南部コミセンと周辺整備は

町長 親しまれる施設に

議員 (仮称)南部コミセンの児童館・出張所、公民館の運用方法・管理体制は。

町長 施設利用予約の有無に関わらず日曜日や祝日も開館したい。平日は出張所で、町職員が窓口業務を行い、施設の利用受付や応対を行う。出張所が閉所している平日夜間、土曜日、日曜日は、別に管理人を配置したい。

児童館は、統一した運営方針で学童保育にあたる必要があるとあり、もみじヶ丘児童館と(仮称)南部コミセン内児童館の運営を併せて、同一事業者へ業務委託を行う。出張所は、現在のもみじヶ丘出張所で取扱っている業務を行う。公民館の事業内容は、現在検討中である。

議員 隣接している多目的広場の利用法は。

町長 自由に利用できる広場として開放し、(仮称)南部コミセンの行事を行う際には、多目的広場も一体的に活用することで、より大きな地域イベントの開催にも対応する。また、施設を避難所、多目的広場を、緊急避難場所に指定することから、広場内にマンホールトイレの設置を計画している。

議員 (仮称)南部コミセンへのもみじヶ丘からの動線整備は。

町長 もみじヶ丘地区から(仮称)南部コミセンに通じる動線として、今後、利用頻度が高くなることが見込まれる。公園内にスロープ通路を整備し、ベビーカー使用时や車椅子利用の方も安心して通行できるよう対応する。町民バスの(仮称)南部コミセン停留所の設置は、今後検討する。

コンビニ納付の実現を

町長 情報の収集と研究を重ねる

議員 町へ納付する税金の滞納者減少と町民の利便性向上のため、コンビニ納付の導入を。

町長 コンビニ収納は、平成27年度末で、県内20市町で実施をしている。システム改修の経費、収納代行手数料といった費用面の問題、納付通知書の仕様書の変更、取扱期間の問題がある。マイナンバー制度によ

り、コンビニなどで個人番号カードを利用して、町が発行する証明書を取得することができると、社会情勢は変化している。平成27年度の収納率は、98・21%となっており、当面は、口座振替納付の普及拡大と納税貯蓄組合への加入促進を行う。コンビニ収納などの多様な収納方法は、導入事例の情報収集と研究を重ねる。



親しみやすいコミセンを目指して

在宅介護者への支援充実を

町長 「まほろばカフェ」を開催

議員 認知症は誰もが発症する可能性がある病気で、地域で暮らす認知症患者は今後さらに増えることが予想される。認知症患者が地域で安心して暮らせるための支援事業は。

町長 65歳以上の高齢者を対象に、生活機能低下の基
本チエックリストや物忘れ
外来などのほか、本年度か
ら「まほろばカフェ」を開催
している。

議員 誰もが集い、地域で
支え合う「認知症カフェ」を
各地区で開催できるよう取
り組んではどうか。

町長 モデル的に「まほろ
ばカフェ」を開催している。
地域づくり支援策は他自治
体の情報を収集する。

議員 認知症在宅介護者へ
の支援策は。

町長 介護している人・家
族・介護に関心ある人を対象
に勉強会、情報交換、介護
者交流、認知症家族会「ほつ
とケア」を開催している。

議員 認知症サポーター養
成講座を役場職員も受講し
てはどうか

町長 地域包括支援センタ
と協議する。



こひで 子出 日 議員
ごめ 籠 堀

高齢者にやさしい公民館を

町長 バリアフリー化に補助

議員 各地区公民館は、地
域活動の場、災害時避難所
として地域の拠点施設とな
っている。耐震性の確保と
バリアフリー化への見解
は。

町長 耐震性確保の費用は

補助対象にはならないが、
バリアフリー化は玄関およ
び手すりなどの設置、段差
解消の一部改築費用を補助
対象としている。

議員 高齢者の利用頻度が

高いことから、イス、テー
ブル購入への対応は。
町長 備品は補助対象には
ならないが、地域の中心拠
点であることを踏まえ機能
強化の研究を進める。



お茶を飲みながら 交流・相談

信号設置を 事故多発

町長 大和警察署と協議



議員 史 博 藤 議員 史 博 藤

議員 吉岡まほろば2丁目は住宅と子供が急増し、交通安全の取り組みが必須だ。町道吉田落合線のおてんとさん西側の交差点は事故が多発している。信号と横断歩道の設置を。

町長 交差点は吉田落合線が優先道路となる。大和警察署によると、昨年1月から今年4月30日まで、軽傷の人身事故が1件と物損事故が6件の計7件発生している。

信号機の設置には、事前に交通量、交通事故の発生状況、交差点の形状を調査・分析が必要であり、今後、大和警察署と横断歩道の設置も含めた協議を行う。

議員 西柿木公園北出口は、さえぎるものがなく危険である。洞堀川に転落防止柵の設置を。

町長 河川区域内には原則として構造物の設置は認められず、歩行者が転落する恐れのあるところに限り防護柵を設置した。法面は2割勾配（垂直1に比して水平2）となっており、緑道は歩行者だけが通行し、安全は確保されている。

議員 町道古熊野堂線ならびに団地内の要所に停止線や、「一時停止」「子供飛び出し注意」、などの標識の設置を。

町長 古熊野堂線が優先道路となり、T字路が2カ所、十字路が3カ所ある。停止線と一時停止の交通標識は、県公安委員会が設置するので、大和警察署と協議を行う。また、注意の看板は、現地の状況を調査し、対応したい。



信号機の早期設置を

デマンドタクシーより便利に

町長 移動手段は確保されている

議員 吉岡地域は町民バス宮床線を利用できるが運行地域も限られている。住民からは病院へ通うのに他地域より費用がかかるとの声がある。運営を見直してはどうか。

町長 デマンドタクシーは町民バス代替として、宮床、吉岡地区は、宮床線が1日あたり9便運行しており、通院などの移動手段は確保されている。

町民バス代替として、宮床、

先進地を視察

総務常任委員会 定住促進と防災対策を学ぶ

委員会視察 レポート

視察月日

6月22日・23日

視察地

北海道新十津川町
北海道上富良野町

視察者

大須賀啓委員長、高平
聡雄副委員長、堀籠日
出子委員、渡辺良雄委
員、今野信一委員、馬
場久雄議長

視察内容

・定住促進制度
・ふるさと応援寄付金
・防災対策
・婚活・恋活



人口減少地域の有効な施策は

北海道新十津川町 ①定住促進制度

町内で新築住宅、中古住宅を取得した際に助成金を交付し、さらに子育て世帯を応援するため、中学生以下の子どもがいる場合、子どもの一人につき15万円分の商工会加盟店で使える「ふれあい商品券」を交付している。

②ふるさと応援寄付金（ふるさと納税）

新十津川町の取り組みに共感し、賛同してもらえん方々から寄付金を募り、ふるさと応援基金として積み立て、まちづくりに活用している。

所感

転入者が新築住宅の施工を町内業者に依頼すると200万円の助成が認められる。中古住宅取得でも最高100万円の助成、また子育て支援策も充実しており、若い世代に対し町内への定住を上手にアピールしている。大和町内の人口減少地域に有効な施策だと感じた。

豊富な食のメニューをふるさと納税専用サイト「ふるさとチョイス」に公開して、取り扱い件数が激増した。北海道産は、それだけでブランド力を持ちうらやましい限りだ。本町も強くアピールできる特産品の開発を急ぐべきだと感じた。

北海道上富良野町

①防災対策

十勝岳を抱える町として、火山防災に力を入れていた。さらに、「生活の不安を取り除く地域社会づくり」として、近年発生する様々な災害を想定し、降雨災害における早期復旧・土砂流出防止などに対しても取り組ん

②婚活・恋活

人口減少対策として、基幹産業である農業の後継者および担い手の確保を目的にパートナー対策事業の支援を行っている。

所感

防災計画を立てるとき苦慮するのが、災害時要援護者の把握である。プライバシーの問題で踏み込めない部分があり、近所の人でも知らない状態がある。上富良野町では、守秘義務を確立することにより「避難行動要支援者」の名簿を作成し、要支援者一人一人に対し「個別支援計画」をつ



要援護者の支援を学ぶ

くり、誰が支援に当たるのかを明確にしている。

災害が起きたことを現実的にとらえ、様々なケースに対処した「地域防災計画」をつくり、それに基づいた自主防災組織の訓練が大切になる。具体的な計画は、住民の防災意識も高める。

人口減少問題は、今から対処していかなければならない。そのためにも安心に暮らせる町（災害に強い町）、定住促進制度や子育て支援が充実している町を強化していく必要があると感じた。

報告者 今野信一

委員会視察 レポート

視察月日

6月29日・30日

視察地

高知県いの町
高知県四万十町

視察者

千坂裕春委員長、平渡高志副委員長、藤巻博史委員、浅野俊彦委員、犬飼克子委員、千坂博行委員

視察内容

- ・山村留学
- ・子育て支援短期入所事業
- ・軽度生活支援事業
- ・認定こども園

高知県いの町

①山村留学

いの町の学校教育の振興と充実をはかるため、山村への留学を希望する生徒を受け入れ、自然環境と人情味あふれる地域の人々と

社会文教常任委員会

山村留学と認定こども園を学ぶ

のふれあいを通して子どもたちの豊かな人間性を育成し、地域の活性化に寄与することが目的である。

②子育て支援短期入所事業（ショートステイ事業）

児童を養育している家庭の保護者が疾病や社会的な理由により、家庭での養育が一時的に困難となった児童を

一定期間養育・保護することで、児童と家庭の福祉向上を図ることを目的とする。

③軽度生活援助事業

介護保険の要介護認定で非該当と認定されたおおむね65歳以上の人のうち、ひとり暮らしの高齢者など4項目に該当する人に適用される。利用内容は外出



いの町の子育て、高齢者支援を学ぶ

時の援助（外出・散歩時の付き添い）など5項目での生活援助が目的である。

所感

山村留学には全国からきている。問題をかかえた生徒も地域にとけこみ、生活をしている。教育現場の努力と地域住民の理解と協力があり、本川神楽などの伝統文化の伝承に寄与している。

子育て支援短期利用事業は、本町と違い、申請を行政が受けることである。ほけん福祉課などい歳児から関わりのある行政が行うことで、安心感がある。

軽度生活援助事業は、自立支援を目的に地域資源活用で、民間ボランティア「結」による有料援助事業であり、自立支援への理解



活き活きとした園児の演奏（四万十町）

が深く、デイサービスとの違いが明らかである。

高知県四万十町 認定こども園

心身ともに健やかで意欲ある子どもに育てることを目標に、平成24年4月より幼保連携型認定こども園「たのの」を開園。環境を整え「遊び」を通じた総合的な生活体験を重ねることによって、幼児の主体的な活動や創造性

を伸ばすなどの保育を行っている。

所感

地域や近隣の小・中学校、高校などのいろいろな人との関わりを深め、交流連携をしながら、信頼され、愛される認定こども園づくりに努めていた。職員間の連携と共通理解を図り、園全体で対処していく体制づくりがなされていた。

報告者 千坂博行

委員会視察 レポート

産業建設常任委員会

空き店舗活用と地域おこしを学ぶ

視察月日

6月29日・30日

視察地

北海道網走市
北海道中標津町

視察者

門間浩宇委員長、堀籠英雄副委員長、中川久男委員、今野善行委員、馬場良勝委員

視察内容

- ・アドプト・プログラム
- ・中心市街地活性化（商店街空き店舗活用事業）
- ・お試し暮らし
- ・地域おこし協力隊

北海道網走市

①アドプト・プログラム

「アドプト・プログラム」とは、市民と行政が協同で進める清掃活動をベースとした「まち美化プログラム」のことで、アドプトとは「養子縁組する」と

いう意味。

網走市では、夏の市営スキー場の活用法としてこの制度を取り入れ、3・5ヘクタールの用地を個人・団体とアドプトし、花を定植して、フラワーガーデン「はな・てんと」として観光地にした。

②中心市街地活性化

空き店舗に新規起業者を導くため、商店街活性化委員会は、所有者と家賃が安価になるよう交渉を行う。空き店舗活用事業補助制度では、店舗改修費補助や家賃の補助を行い、中心市街地の活

性化と雇用の創出を図っている。

所感

アドプト・プログラムは定期的、継続的に愛情をもって取り組むことができるシステムと感じた。

空き店舗活用事業は、1年間で21件の補助を行ない、7割の事業者は継続している。

本町でも今年度より商店街活性化事業が始まるが、ぜひ中心商店街のにぎわいを取り戻したいものである。

北海道中標津町

①お試し暮らし

移住希望者へ「お試し暮らし住宅」を提供し、町民と同様の生活体験の事業をしている。平成18年度から実施しており、11棟の住宅を1週間から1カ月

程度、年間60～80人が生活体験している。

②地域おこし協力隊

観光分野のノウハウを持った人材を募り、「地域おこし協力隊」として確保した。周辺地域の魅力向上と交流人口の増加、地域経済、観光産業の活性化を目指している。地域資源を活かしたイベントの企画などさまざまな活動をしている。

所感

移住促進の体験事業として始めた「お試し暮らし」は、移住実績は少ないが、定住促進という観点から一つの有効な方策と感じた。

「地域おこし協力隊」は、観光協会のマンパワー不足を補い、行政ではできなかった地域おこし策や、しがらみを超えた新しい協力体制の構築などあらたな視点から町をPRできると感じた。

報告者 門間浩宇



新たな地域おこしの創出を学ぶ

委員会 レポート

5月24日の午前に岩手県軽米町議会広報編集委員会6人、午後には岩手県釜石市議会、だより編集特別委員会7人の視察を受けた。

お互いの議会広報をよりよくするために活発な意見交換が行われたほか、議会に関する質問もなされ、有意義な視察研修会であった。また、本町で行っていない議会中継や録画放送などの開かれた議会への取り組みを聞くことができた。



岩手県軽米町議会広報編集委員会



岩手県釜石市議会だより編集特別委員会

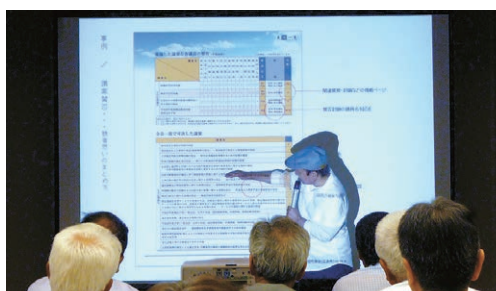


広報常任委員会
かるまいまち
岩手県軽米町・岩手県釜石市
かまいし
議会広報の視察に来町

議会広報クリニック

【研修者】 藤巻博史委員長、槻田雅之副委員長、渡辺良雄委員
今野信一委員、千坂博行委員、馬場良勝委員

わかりやすく親しみやすい
議会広報の発行に向けて



具体的な講義

所感
広報誌を手にとって読んでもらうために

研修目的
広報誌作成にかかる表現や表記、広報クリニックを通して議会広報誌の改善点や追加すべき記事などの指摘事項やアドバイスを今後の広報活動に活かす。

講師

エディター
広報アナリスト
吉村 潔 氏

研修地

全国町村議員会館(東京)

研修月日

平成28年7月12日

議会活動

報告者 渡辺良雄

議会広報の誌面づくりは、年々進化してきているように思われ、今後も全国町村広報委員の集う本研修には継続参加していくことが必要と感ぜられた。

本町広報委員会は、6人の委員中5人が本年4月からの新人委員であり、今後の編集にたいへん参考となる研修であった。

他自治体の広報誌を、講義により研究し、それぞれ良い点・良くない点を分かりやすく学ぶことができた。



表現や誌面構成を学ぶ

■議会のうごき■

月 日	内 容
5. 1	たいわ町議会だより188号発行
5.18	県町村議会議員研修(新人議員)
5.24	広報常任委員会視察受入(岩手県軽米町議会) 広報常任委員会視察受入(岩手県釜石市議会)
5.25	総務常任委員会(6月定例会)
5.26	社会文教常任委員会(6月定例会)
5.27	産業建設常任委員会(6月定例会)
6. 1	議会運営委員会(6月定例会)
6. 6	6月定例会(一般質問7人)
6. 7	6月定例会(一般質問6人、議案説明) 全員協議会(全4件)
6. 9	6月定例会(質疑、採決) 議会活性化調査特別委員会
6.20	広報常任委員会(189号掲載紙面の検討)
6.22	総務常任委員会(北海道新十津川町視察)
6.23	総務常任委員会(北海道上富良野町視察)
6.28	広報常任委員会(189号掲載紙面の作成)
6.29	社会文教常任委員会(高知県いの町視察) 産業建設常任委員会(北海道網走市視察)
6.30	社会文教常任委員会(高知県四万十町視察) 産業建設常任委員会(北海道中標津町視察)
7.11	広報常任委員会(189号紙面の校正)
7.12	広報常任委員会(研修)
7.19	広報常任委員会(189号紙面の再校正)
7.27	県町村議会議員講座(総務常任委員会)
7.28	県町村議会議員講座(社会文教常任委員会)
7.29	県町村議会議員講座(産業建設常任委員会)

より議会を知っていただくために

議会のことば

◆動議とは…

会議の議事の進行において、議会の意思決定を求めて議員から提起される議案以外のものである。所定の賛成者があれば成立し、日程への追加が承認されると議案になる。独立した動議で重要なものは事前に提出されていることが多く、その場合は、あらかじめ議事日程に掲載し、日程追加を要しない。

▼種類

①案を備えているもの
修正案、懲罰、不信任案、意見書、会議規則、決議案など

②案を備えていないもの
会議の開閉や議事、委員会、選挙、懲罰などに關すること

▼提出時期

会議の進行中、いつでも口頭によつて提出され、制限はない。討論の前に提出されなければ意味をなさない。

▼成立要件

・通常の動議
議員1人以上

・条例

・予算案の修正動議
定数の12分の1以上

・秘密会の発議
議員3人以上

・懲罰の動議
定数の8分の1以上

▼役割

議事運営の能率をあげるためだが、乱用して本来の目的が歪められてはいけない。

出前講座を行います

議会をもっと身近に感じていただくため、知っていただくために議会事務局職員が出向き、議会の仕組みなどをわかりやすくご説明します。各行政区や各種団体、町内の学校の皆さん、お気軽にお申込みください。

また、議会について不明な点がありましたら、お気軽にご連絡ください。

大和町議会事務局

TEL345-7506(直通)



大和中学校3年

ふくだ
福田 若葉さん



大好き!!

大和町

宮床中学校3年

おおめき
大貫 泰河くん



未来の大和町のために

本校では、「挑戦・理想を目指して」をテーマに生徒会執行部が中心となって様々な活動を行っています。

中でも一番力を入れているのが、昨年から新たに始めた町内の清掃活動です。この活動は、大好きな大和町の自然をこれからも保つていくために、私たちにできることは何だろうと考えたところ、清掃活動だと思い、まだ規模は小さいですが

1カ月に1回、生徒会執行部だけでなく、校内でボランティアを募り活動しています。これから、十年、二十年、三十年経っても、この大好きな大和町の自然が今のままになっていることを願い、小さな事かもしれないけれど、少しでも大和町のためにできることをこれからも続けていきたいと思っています。

未来の大和町のために。

私たちのすてきな大和町

皆さんは、私たちの町、大和町が好きですか？

私は、この大和町のことが大好きです。理由は、いろいろあります。やはり一番は、自然が豊かなことです。この町は、どこにいても豊かな自然を身体全体で感じる事ができます。目に入ってくる木々の緑、耳に聞こえてくる鳥のさえずり、肌に感じられるさわや

かな風、その中でも私の一番のお気に入り、七ツ森です。全部の山は登ったことはありませんが、いくつかは登ったことがあります。頑張って登って見られるあの美しい景色は、達成感が心の底からこみ上がり、とても幸せな気分になります。

だから私は、そんな自然豊かなこの大和町が大好きです。

町消防団夏季演習

6月12日(日)総合運動公園で消防団夏季演習が行われました。

各分団が常日頃、練習している小隊訓練や操法訓練などを披露しました。



編集後記

次世代へ

選挙権の年齢が引き下げられて、初めての国政選挙がありました。18歳、19歳の皆さんは、投票にいかれましたか？

私は、今年の4月から広報の編集に参画しました。一人でも多くの町民に手に取って見てもらえる読みやすい誌面づくりを目指しております。

今後も、次世代が住み続けたいまちづくりの実現のため、町民と行政の「たいわ」交流を大切にしたいので、皆様からのご意見・ご要望をお寄せください。

広報常任委員会

副委員長 槻田 雅之

議会を傍聴してみませんか？

面倒な手続きはありません。1人でも団体でも傍聴できますので、ぜひお越しください。1階の町民ホールでも視聴できます。

次回定例会は
9月6日(火)から
9月16日(金)までの予定です。

大和町議会事務局
☎022-345-7506
✉gikai@town.taiwa.miyagi.jp

議会広報常任委員会

編集発行責任者

議長 馬場 久雄

編集委員

委員長 藤巻 博史

副委員長 槻田 雅之

委員 渡辺 良雄

委員 今野 信一

委員 千坂 博行

委員 馬場 良勝

〒981-3680 宮城県黒川郡大和町吉岡字西松木1番地の1
TEL 022-345-7506 ✉gikai@town.taiwa.miyagi.jp
年4回発行/印刷: 株式会社鈴木印刷所



この印刷物にはVOC
(揮発性有機化合物)成分ゼロの
環境にやさしい100%植物油型
インキを使用しました。